

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 173人 社会 173人 数学 173人

理科 172人 英語 173人

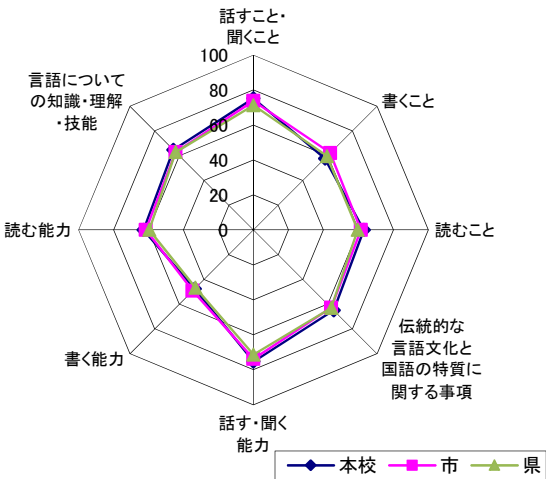
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.3	73.8	71.3
	書くこと	57.9	62.2	59.6
	読むこと	63.1	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.0	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	75.3	73.8	71.3
	書く能力	47.5	49.2	46.8
	読む能力	62.9	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	64.7	62.9	62.9



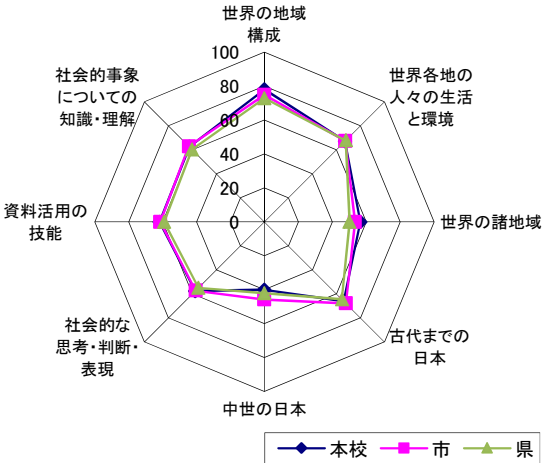
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は75.3%で、市の平均より1.5%上回った。特に司会者の話し合いの進め方について問う問題の正答率が高い。 ●意見をより良くするためにさらなる意見を述べる問いが比較的正答率が低い。	・少人数グループにおける合意形成を目的とした話し合い活動を行い、話し合いの基本的なスキルを習得させる。
書くこと	○今までで利用したことがある話型を活用して書こうとしている。 ●正答率は57.9%で、市の平均より4.3%下回った。特に表現技法の名称やその効果を問う問題の正答率が低い。	・表現技法の名称やその効果に関する知識を再確認し、さらに自分の表現に生かす学習活動を展開し、表現力を高める。
読むこと	○正答率は63.1%で、市の平均より1.6%上回った。特に文章の構成や展開をとらえる問の正答率が、県の正答率と比べて10%も高い。 ●図やテキストを比較して、相違点を見つける問の正答率が比較的低い。	・非連続型テキストを含む多様なテキストに触れる機会を意識的に設け、比較したり、評価したりする多様な言語活動を継続して行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は65.0%で、市の平均より2.1%上回った。漢字の書きにおいては「重圧」「祝う」が県の正答率を10%近く上回っている。歴史的仮名遣いの読みを答える問では、県の正答率よりも約20%も正答率が高い。 ●漢字の読みにおいて、「互い」「減びる」の正答率が、県の正答率よりも5%以上低い。	・漢字テストを継続的にを行い、漢字の読み書きに一層習熟させる。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	78.0	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	67.1	67.5	67.8
	世界の諸地域	56.5	53.4	50.2
	古代までの日本	66.2	68.0	64.6
	中世の日本	40.1	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	57.7	57.3	55.0
	資料活用 of 技能	61.8	61.4	59.1
	社会的事象についての知識・理解	62.5	62.9	60.3



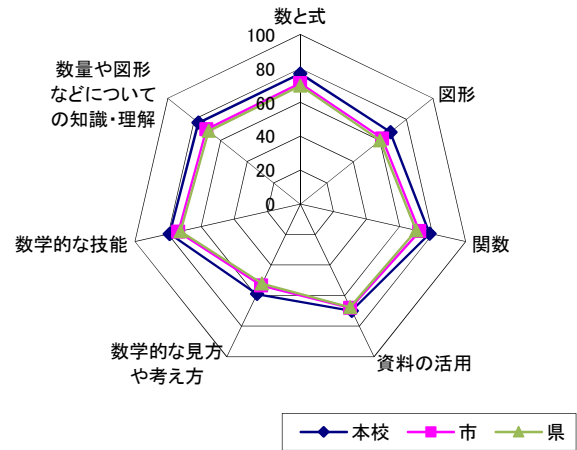
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○赤道についての正解では県の正答率を9%以上上回っている。また、領域の正答率は、5%以上上回っていた。 ●緯度と経度の理解をもとに、地図を読み取ることができるの正答率が伸び悩んだ。	緯度と経度の理解をもとに、地図を読み取れることを定着させるために、地図資料などをさらに活用して指導していきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の人々の生活と環境についての理解をもとに、雨温図の示す地域を判断することができる。は県より9%以上上回っていた。 ●世界の人々の住居について理解している。が県より9%下回ってしまった。	世界の人々の住居についての理解の定着をはかるため、写真資料などを活用して指導していきたい。
世界の諸地域	○領域の平均正答率を6%以上上回っていた。 ●ヨーロッパの国々の名称と位置を理解している。では県の平均回答率より9%下回っていた	基本的な地域名や国名、位置を定着させるため特徴のある写真資料や地図帳などをつかい興味・関心を高めさせるように指導していきたい。
古代までの日本	○平安京について理解している。では県の正答率より4%以上上回っていた。 ●領域の平均正答率は県は上回っていたが、市では下回っていた。	古い絵巻物や、絵画を用いるなど資料からその時代の特色や時代背景を読み取る学習を今後も引き続き継続することで、資料から読み取って内容を説明できる力を高めさせていく。
中世の日本	○承久の乱についての理解をもとに、鎌倉幕府のしくみの変化について考え、説明する。では県の正答率より若干上回っていた。 ●領域の平均正答率は県より2%下回っていた。	中世の日本の史実について、理解を深めるために年表や資料集をさらに活用し、興味・関心を持たせるように指導をしていきたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	76.9	71.2	69.8
	図形	68.0	61.9	60.2
	関数	78.2	72.1	70.1
	資料の活用	69.9	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	58.9	53.4	52.1
	数学的な技能	79.0	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	76.9	70.8	69.1



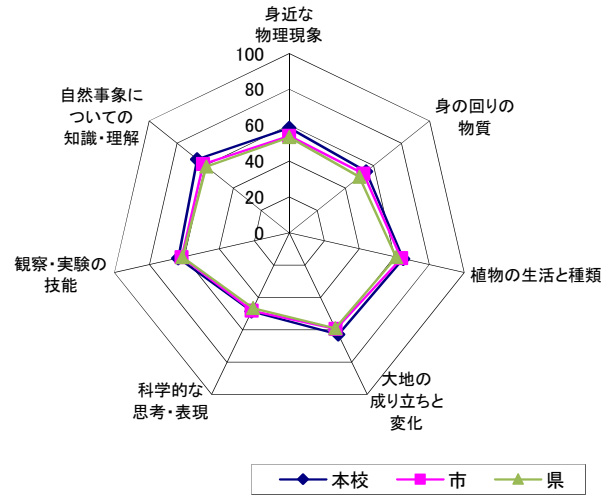
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。特に文章から1次方程式を立式する問題では県の正答率よりも16.8ポイント高い。 ●文字式の記述問題の正答率が、県の正答率は上回っているが低い。	・文字式の中でも、特に数学的に表現されたものを読みとり筋道立てて説明する問題に苦手意識をもっている生徒が多いと思われる。言葉の式や図を確認しながら丁寧な指導を行っていくとともに、1年次の学習内容をもう一度確認させる。
図形	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。特に位置関係や投影図についての問題の正答率が高い。 ●図形の移動の問題の正答率が、県の正答率は上回っているが低い。	・図形の移動の問題は、特に回転移動に苦手意識をもっている生徒が多いと思われる。パソコンや教具等を使い、実際に動く様子を視覚的に捉えられるようにしていくとともに、1年次の学習内容をもう一度確認させる。
関数	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。特に比例の式からグラフをかく問題では県の正答率よりも14.3ポイント高い。 ●反比例の関係になるものを選択する問題の正答率が、県の正答率は上回っているが低い。	・用語の意味や性質をしっかりと理解させる必要がある。関数分野の単元において、1年次の学習内容をもう一度確認させる。
資料の活用	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。特に度数分布表を利用する問題は正答率が高い。 ●資料の傾向を捉え、数学的に説明する問題のが、県の正答率より4.9ポイント低い。	・用語の意味や性質をしっかりと理解させる必要がある。また資料から何を読みとることができるかを丁寧に確認するとともに、1年次の学習内容をもう一度確認させる。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	58.5	54.0	53.3
	身の回りの物質	54.8	52.9	50.0
	植物の生活と種類	65.1	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	62.9	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	48.6	48.2	46.7
	観察・実験の技能	63.5	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	65.8	61.4	59.2



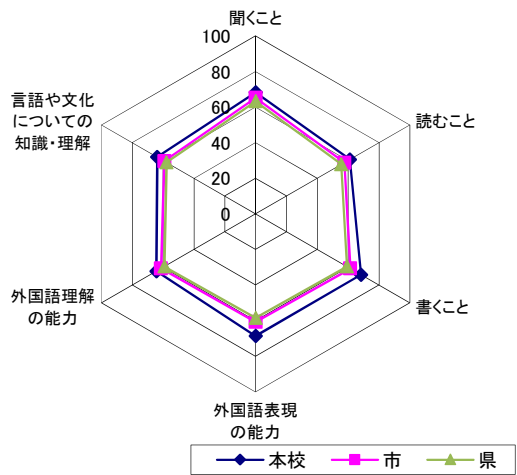
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域の平均正答率は58.5%で市や県よりも上回っている。特に「光と音」と「力と圧力」における実験方法の説明と結果をグラフ化する問題では市や県よりも3%以上、上回っている。	・市や県よりも大幅に上回っているわけではないため、わかりやすい授業を継続的に行う。 ・光の進み方など図で理解する必要がある実験においては情報機器を使用し、理解しやすくする。
身の回りの物質	○領域の平均正答率は54.8%で市や県よりも上回っている。 ●「物質のすがた」、「水溶液」の問題では、市や県よりも4%以上上回っているものの、「状態変化」では市や県よりも1%下回っており、ガスバーナーの使い方などの技能の問題で県や市の平均だけでなく、前年度よりも2%下回る結果となっている。	・技能的な問題は顕微鏡やガスバーナーなどの使い方テストやグループ内での教えあい活動を行うようにさせて、道具や方法を確実に身に付けさせる。 ・水溶液中の溶質の粒子は目に見えないため、モデルを絵や図で表す方法を工夫する。
植物の生活と種類	○領域の平均正答率は65.1%で市や県よりも上回っている。特に「生物の観察」、「植物のなかま」における問題では3%程度上回っている。 ●「植物の体とつくりとはたらき」では、市よりも1%下回っており、特に、実験結果を比較し、蒸散量を求める問題において県よりも5%下回っている。	・思考的な問題では実験・観察の意味を生徒側に考えさせ、対照実験の必要性などを理解させる。
大地の成り立ちと変化	○領域の平均正答率は62.9%で市や県よりも3%以上上回っている。特に火山と地震においては市や県よりも7%以上上回っている ●「地層の重なりと過去のようす」の問題においては市や県よりも約3%下回っており、知識の問題で8%下回っている。	・岩石の特徴では多くの観察機会を与えたことで、定着したと考えられるため継続していく。 ・基礎基本をさらに定着させるために、用語確認等を授業の初めに行うなど、工夫をしていく。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	68.2	65.2	63.2
	読むこと	61.2	57.6	55.6
	書くこと	68.4	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	68.6	60.7	58.4
	外国語理解の能力	64.4	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	63.8	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は68.2%で県の平均より5ポイント高い。問題の内容別では「対話文の聞き取り」が5.3ポイント、「対話文の聞き取りと応答」が7.8ポイント、「まとまりのある英語の聞き取り」が2.1ポイント県の平均より高い。	・「まとまりのある英語の内容理解」では、「読み取る活動」より「聞き取る活動」の比率を高めたり、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を再度確認したりすることで概要や要点を適切に聞き取る能力の向上を図りたい。
読むこと	○領域の平均正答率は61.2%で県の平均より5.6ポイント高い。問題の内容別では「まとまりのある英文の読み取り」が8.3ポイント、「長文の読み取り」が3.0ポイント県の平均より高い。	・「長文の読み取り」では、物語のあらすじや説明文の要点をとらえたり、伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解したりするなど、様々な分野の長文に触れさせることで読み取る能力の向上を図りたい。
書くこと	○領域の平均正答率は68.4%で県の平均より9.2ポイント高い。問題の内容別では「場面や条件に応じた英作文」が12.7ポイント、「テーマに基づく英作文」が11.5ポイント県の平均より高い。	・現在行っている「聞いたことを書く」、「読んだことを書く」といった統合的な活動をさらに充実させたり、生徒の身近な暮らしに係る家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事といった様々な場面やテーマに沿った英作文に取り組ませることで書く能力の向上を図りたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○どんな教科が好きですか「音楽」との設問で県市とも通常75%のところを本校では93%であり、音楽についての興味関心が高く、文化祭などの学校行事についても前向きな取り組みが目立つ。

○本学年は給食の残飯が少ないと学校栄養士から指摘された。それを裏付けるけるように食物の好き嫌いが少ない事実が改めて示された。

○コミュニケーション能力に長けており、学習活動にも生かされていることが、データの的にも証明され、今後ともコミュニケーションの伸長に努めていきたい

●「学習が好きですか」の設問に、マイナスの返答をする生徒がクラスによって大きな差があり、今後その原因を調査し改善すべく手段を講じたい。

まる